

# 防災 特集

# その経験を

# 力に変えて

【詳細】危機管理室 ☎(32)6280  
消防本部予防課 ☎(32)6724

北に樽前山、南に太平洋という豊かな自然環境に位置する苦小牧市。そこから私たちはたくさん恵みを受けて生活しています。しかし、自然と共に暮らすためには、それらが引き起こす災害から目を背けることはできません。今回の特集では、このまちで生きる私たちが、どのように災害と向き合うべきかを考えます。

## まちの経験に学ぶ

「今まで体験したこともないような、何も聞こえないほどの大雨。」そう話してくれたのは、南錦岡町内会長を務める青山勇さん(83歳)。「水が自宅の玄関ぐらいついで来て、危ないなと思った所に、覚生川で列車が脱線したと連絡が入りました。現地では、川の増水や流木で鉄橋が崩れ、列車がV字型に落ち込み、外から見ても人が亡くなっ



▲自作の錦岡地区の古い地図で説明する青山さん

ているのがわかりました。」と、昭和25年に発生し、死傷者61人を出した大水害について、当時の様子を話してくれました。

### 「身近な災害」と向き合う

苦小牧市はこれまで、様々な災害を経験してきました(下表)。まちのシンボルである樽前山は今も活発な活火山で、江戸時代から現在まで70回以上も噴火しています。甚大な被害を及ぼした風水害も多く、マグニチュード8クラスの地震も数度発生しています。最近では気象状況が不安定であり、どんな災害が起こるか分かりません。しかし、過去に発生した災害は、また起こるかもしれない「身近な災害」であり、これから起こりうる新たな災害を考える上で重要な判断材料となります。

### 過去に苦小牧で発生した大きな災害の例

災害(発生日)	概要(苦小牧市史より)
樽前山の噴火 1909(明治42)年1月	現在の溶岩ドームが形成された、5カ月間にわたる噴火。40km離れた札幌でも降灰が確認された。
大雨による大水害 1950(昭和25)年7月	一日で447.9mmという大雨による大水害。河川の氾濫や覚生川の鉄道事故、約5,600戸もの浸水を引き起こした。
洞爺丸台風 1954(昭和29)年9月	最大瞬間風速37.8mの暴風雨により、建物をはじめ、農業・林業関係に約10億円(当時)もの被害を与えた。
十勝沖地震 1968(昭和43)年5月	震度6(当時)の地震により、全市的に停電や断水、通信や交通網もストップした。最大168cmの津波が押し寄せた。